

主编 汤重南

日俄战争史料

19

綫装書局

主编 汤重南

(第十九册)

日俄战争史料

线装书局

第十九册

日露交戰紀念錄(二)下卷

内田安藏 吉田文彦 著

明治三十九年三月

.....

一

下卷

日露交戰紀念錄（二）

内田安藏 吉田文彦 著

明治三十九年三月

くも二百以上に達せしならん我損害は戦死卒二馬一負傷將校一（輕傷）下士卒十六なり

◎全線の小衝突

英領城より威遠堡門昌圖を經左は康平地方に互る各方面の戦線は依然として彼我斥候部隊の一進一退に因る小衝突を見るの外特に記すべき異狀無きが如し過日我が軍威遠堡門方面より前進したる一部隊も一旦楊木林子に至りて敵の前衛線に接近したるも直に引返して本隊に歸來したり尤も同部隊前進の目的も亦た一時敵の斥候部隊を一掃すると同時に敵の前線を偵察するに在りしこと稍々明瞭となれり然ども戦闘の常として斯る小規模の衝突又衝突が動機となりて偶々本戦に移らずとも斷言し難ければ何時如何なる快報の來らんも知れずといふが前線昨今の情況ならん尙ほ我左翼軍方面の側背に向つて迂回運動を企圖し事前に我軍の爲めに懸懷せられ潰走したるミスチエンコの騎兵團に就ては其後未だ確實なる情報は無きも其主力の向へる鄭家屯方向に在つて頻りに整頓を謀りつゝあるものゝ如くなれば今後敵の總司令部依然として其戰略一變せざる限りは再び何れの方面に向つて運動し來るべきは戦術上の原則なるが故に我軍亦た必來を期待し居るならん歟

◎兩方面の戦況

北韓方面 七月二日拂曉砲兵を有する敵の騎兵約四百富寧街道上獐項（輪城北方約二里半）附近に現出せしを以て同地附近に在りし我兵之と交戦し午前七時三十分頃多大の損害を與へて之を北方に撃退せり又敵の退路を遮断する目的を以て遠く北方に迂回せる我支隊は同日正午頃盧通溝（輪城北方約五里半にして富寧街道上にあり）西北高地に在りし敵の歩兵を攻撃中獐項附近より敗走し來れる敵の騎兵を掩撃し之を潰亂せしめたり本戦闘にて鹵獲せしもの乗馬一、鎗二十八、外套六十六、其他天幕、土工具、及彈藥等なり

滿洲方面 七月一日午前八時頃敵騎約六百、牡牛河（康平の東北約五里）方向に前進し來りしも同地附近にありし我兵の爲め撃退せられたり又午前九時過より獅々谷（牡牛河西北約三里）附近に向ひ砲約十八門を有する約一千五百の敵の騎兵（内乗馬歩兵若干あり）來襲し交戦夜に入り翌二日拂曉に至り我兵之を撃退せり此戦闘に於て敵に與へたる損害は死傷四百以上にて我死傷九十名なり

◎馬鹿溝の激戦

晝間の猛射

敵將レンネンキャンプは我第一線前に諸兵聯合の縦隊を行動せしめ動もすれば攻撃の姿勢を採りて南進の態度を示したるも或は大小白銀河に於て或は四磨子の高地に於て或は南山城子大石頭口に於て或は淡々子溝に於て悉く私の撃退する處となりて中央より右翼の方面に於ては到底事の爲すべからざるを覺るや其左翼方面に若干の部隊を増加して我馬鹿溝方面の部隊に對して攻撃の氣勢を示すに至りたり

蓋し此方面は山勢崢嶸にして開濶地少く其溪谷は沼池水澤頗る多くして通路の完全なるもの無く冬季凍氷の期間に非れば運動頗る困難なるを以て土人は之を冬道地方と稱す途行々北に走りて更に松花江の流を下れば草王の版圖あり數十里の長さ人迹未到の森林あり亞細亞大陸の暗黒世界の一に數へらるゝ程なれば從て露軍の配備も稍々稀薄の感ありて孤山子附近に歩騎合して一千釣魚臺の方面二道溝に若干の監視兵、五道溝に歩騎合して四五百、六道溝附近に歩騎三四百を置きて常に海龍方面にある後衛部隊と連絡し急速第一線に増加するかと思へば復た頓かに減

退し情況の變化窮極する處を知らざりしが前記各方面に於ける進出全く不成功に了るや彼は遽かに此方に力を注ぎて滿韓の境土相接觸する通化方面の我部隊に當り八月二十九日正午より歩騎約二千山砲二門を有せる一縱隊は馬鹿溝の前面に出動し最初は主力を密林鬱葱の間に匿し纔に數個中隊を散開し地物を利用して我に銃射を試むるに過ぎざりしが霎時にして彼は左右に延伸し又は伍間に増加して猛烈なる射撃を試むるに至りたれば歩兵少佐山岡寅之助氏は部下を指揮して之に應射し午後三時頃よりは銃聲砲聲溪谷に響きて或は爆竹の一時に破裂するが如く或は雷聲の雲間に轟くが如く歎むかと思へば復た鳴り鳴るかと思へば又歎み激戰約六時間に亙りて彼の損傷漸く増加し夏草の一むれ勇士の鮮血に染みて斃るゝもあれば一發の銃丸致命の因を爲して三魂遠く逝けるもあり老嶺の險坂路に幾多の擔架の參差として來往するを見るに至りたるが時黄昏に至りて四顧漸く闇からむとする頃彼我期せずして緩射を交換するに至りたるは頗て慘澹たる夜間の白兵戰の起るべきを推想せしめたり。

夜間の白兵戰

正午より日没まで約六時間餘に亙る激戰にて敵も漸く困憊し日の西嶺に沈む頃兩者少しく交綏し緩慢なる銃射を用ゐて相應答するに過ぎざりしが二千の敵兵數門の砲夜闇の故を以て奈ぞ輕

輕しく退却せむや山雨來らむと欲して風樓に滿つ太陽全く地平線下に沒して細谷川の流れの岩間に咽べると哀しげなる騾馬の嘶きとが谷間に響く小銃と共に山村の平和を攪破するのみと思ひきや敵は晝間の攻撃意の如くならざりしを慨し午後八時頃よりは二び我陣地に對して尤も猛烈なる射撃を行ふに至り疾風の如しと稱せられし彼の射撃の方法は頓に變じて一齊射撃となる我の應射も亦從て激烈を極め晚霞も爲めに熱して電火を迸らすに至りしが果然敵は一齊射撃の下に其の歩兵を掩護して前方の高地より凹地に下り或は高梁の間を縫ひ或は楊柳の間を潛行し我に向つて肉薄するの情夜間ながらも我の眼窩に映じければ進で之を撃攘するは甚だ容易なるも是れ敵に猛烈なる打撃を與ふる所以に非ずとして山岡少佐は部下に令し知らざる態して彼の適當の距離迄接近するを俟たしめしに敵兵事既に成れりと思惟し我東北前の斜面に來るやウラ一の聲を揚げ白兵を揮て突撃し來りたれば時こそ良けれと山岡少佐は部下を指揮躍進して之を邀へ哮り狂ひて突上し來れる露軍に向ひ我より進で逆撃に轉じ四百米突より三百米突の邊に達しては硝烟落て四邊を覆ふも銃聲殆ど聞えずなりて劍火閃爍怒罵、叱咤、一死君國に殉ずるを知て復た他を顧みざるの將士は數十分の後悉く之を撃退し復び銃射を敵の陣地に加へ相持して夜半に達したるに執拗なる敵は第一回の失敗を挽回すべく再び我に對して突撃を試みたるも我

の銃火能く彼等我陣地の傾斜面に達せざるに先て之を退却せしめ彼猶屢々突撃を試みたるも其の都度之れを撃退したれば三十日未明より漸次退却を開始し將校以下五名の死體を我が第一線前に遺棄して約七十の戦歿者を生じて遂に一步も我が陣地を踏む能はずして遁逃したり敵の損害は三四百にして我れには一名の戦死者も生ぜずして纔かに五名の負傷者を出したるに過ぎざりしなり

◎敵將通化恢復運動

我前面の敵は馬鹿溝方面に進出せしむると同時に之と聯繫して一部を渾江の二流に突出せしむるの策を樹立したるもの、如くにして會て通化を放棄して我軍の手裡に委ねたる敗將マドリロフは其任を帯びて八月十八日諸兵聯合の兵三千餘を率ゐて寛街を發し南長白山麓に出で右折して渾河の流域を西に下り先づ通化市街を恢復すべしと揚言して其前衛らしきもの歩兵百八十騎兵五百及び彼の指揮下に行動する清國人の花衛隊若干は二十八日午後四道溝に到達したれば我が通化守備隊は進んで之れを撃ち約五時間彼に向て射撃を加へたるに黄昏時より彼は漸次退却を始め六道溝方面に向て潰走したるに此敵は翌二十九日午前八道溝附近より來援したる歩騎

合して八百許りと二門の砲とを合して意氣漸く昂り朝來我に對して猛射を行ひたるも我は極めて緩慢なる射撃を以て之に相對し夜に入りては西方某地より到達したる晴氣大尉の一隊之に増加し互に銃射を交換して三十日天明に達したり斯くて東天漸く白く鷄鳴曉を報ずるや敵將マドリロフは此日誓つて通化に進撃すべしと揚言し部下に向ひ殊更に士氣を振作するの手段として通化恢復の事成るの上は上將に請うて他の部隊と交代し地形險惡物資歉少なる長白山方面を引揚げて北方に移り敵に對するの顧慮少くして給養の充分なる方面に於て暫く人馬を休養すべしなど放言し優勢なる一團の兵員を提げ我を壓迫せむと欲したれば我は熱水河子の陣地に據て之を邀へ通化本道上に猪突し來れる敵は左側に向つて射撃を加へたるに彼は暫く其の地點に散開して猛烈なる銃射を開始し午前十時頃よりは數門の山砲悉く砲門を開て我陣地を砲撃し我の之に酬るの射撃も亦稍々激烈なりしかば敵の銳鋒こゝに至て稍々挫折し銃砲の發射漸次緩慢となり午後に至ては雨さへ降り出で、渾河の水勢漸く加はり南岸の青山水霧に隠れて微茫に入り天地は既に夜の黒幕もて覆はれし一刹那我が某一隊は尙羅圈溝に迂回し夜闇に乗じて敵の側背に突出して敵の一部を潰亂せしめたるも四道溝北方及び四平街方面に於ては敵の兵力益々増加したれば我れは江岸を下りて通化東端の高地に據守し彼の適當の距離に接近するを俟て

一網打盡せんと欲し後方より漸次背進を開始し三十一日天明迄には殆ど目的の地點に到達する
 を得たり然るに敵は私の背進するを見るや機乗すべしと爲し後を慕うて渾河の沿岸を下り三十
 一日午後零時其尖兵は將に通化に入らんとするの有機にて其後續部隊は左右の翼を延長して漸
 次通化を包圍せんと欲するものゝ如く敵の位置は殆ど私の意圖に合して射撃せらるゝ如くなり
 たれば斯機逸すべからずと爲して我は忽ち猛烈なる射撃を開始したるに恰も良し日前馬鹿溝方
 面の敵兵を撃攘したる山岡少佐の一隊亦來援して渾河右岸の高地に陣し同時に他隊の一部も江
 の左岸に位置して先づ私の銃火前に行動せる敵の歩兵約六百騎兵百餘に對して猛射を行ひしが
 彼の山砲は我と相距る千米突許の山背に在りて旺に砲撃を行ひたるも午後二時頃死傷頗る増加
 したるものゝ如くにて稍々退色を表はすに至りたれば私の銃火は常に痛切に敵の陣地に聚中せ
 られたるが午後三時頃全く支ふるを得ずして花道南側高地より四道溝を経て潰亂し二道溝に於
 て少數の後衛は私の追撃を抑止せむとしたるも竟に支ふる能はずして三道溝以東に退却しマド
 リロフの所謂通化恢復運動なるものゝに全く畫餅に歸するに至りたり

●灣口子方面敵軍來襲

露軍レンネンキャンプ將軍の率る左翼の一部は馬鹿溝に進出して我軍の撃破する處となり二び通化を窺察して志を得ず三び九月六日午後一時半頃敵の歩兵約三ヶ中隊と砲二門とを有する部隊は溝口子溝の西南約二里なる梨子勾附近の高地に展開し其砲兵は某地に在る我展望哨に向て俄然砲撃を開始したるも何等の効果を奏せざりしを以て午後二時四十分頃砲撃を中止して退却を始め之と同時に別に歩兵一個中隊を魚亮子西北方の高地に進めて我前哨中隊に向て銃火を開かしめたり是に於て我も亦た直に之に應射し午後四時に至る迄稍々激烈なる射撃を加へたるに敵は遂に痛烈なる打撃を蒙りて敗退せざるべからざるの運命に遭遇し四時少し過る頃大沙灘方向に退却したるが土人の言に據りて判斷するに敵の死傷は尠くも十七八に達したるべし溝口子溝方面の敵は斯くの如く微弱のものたりしも福家店方面に出顯したるものは歩騎約三千砲八門を下らざる優勢の部隊なりき福家店は南山城子の西北約五里に在り南山城子の未だ我手裡に入らざりし以前に於ては此方面の敵兵は必ず出で、南山城子前面の高地に出動したるも同地既に我の占奪に歸し三面の高地悉く堅固なる工事を施されたる今日に方りては彼の進出路は勢ひ福家店より曲柳川の方面を採らざるべからず果然午後二時頃に至り其歩兵二個中隊と砲二門とは曲柳川東北方高地に展開して我が陣地を砲撃したるを以て片岡將校の一隊は進んで敵を追撃す

る爲め前面の陣地を占領し直に砲門を開て敵を猛射し午後二時少し過る頃まで彼我の砲聲般々山谷に鳴動し形勢漸く切迫しては兩軍將に突撃を以て勝敗の數を決するの外無しと推想せしめたるに彼の蒙る打撃の刻々痛切を極むるに至るや依然進出地點に停止する能はずして二時半頃より徐々退却を開始したり是に於て我歩兵若干は疾驅之を追撃したるに敵兵復た止りて我を邀へ機關砲二門と砲數門を以て極力我の追蹤を防遏せむとしたるも彼は敗殘退走の部隊にして銳氣の既に挫折せるのみならず疲勞困憊交々到りて極力頑守の餘力無きに反し我は即ち勝者の位置に起ち彼を追撃して死命を制せんとするに在れば將士奮進猛射を敵に加るに於て死力を盡したれば午後四時半敵は全く射撃を中止して潰走其歩兵の約一個小隊は尤も酷烈なる打撃を蒙りて敗退したるは彼が尤も慎重に取扱ふと稱せる屍體四を戰場に委棄したる儘にて退却したるに依ても之を證明するを得べく同時に二名の捕虜も亦我の收容する處となりたり

◎敵の側背に迫る原中隊の大殊功

諸隊の戰況悉く露軍に不利にして交戰未だ長時に亙らざるに敵は忽ち退却を開始したれば其損害は無論多大なるに相違なきも猶未だ極點には達せざりしに六官巷附近に潛行して敵の側背

を衝きたる一步兵中隊の自己に數倍せる優勢の部隊を撃破したるの一事は其動作の勇敢にして沈毅なりしと共に與へたる損傷の酷烈なりしは正に特筆大書して江湖に報道するの眞價を有すと云ふべし九月六日昧爽歩兵大尉原亨氏の率ゆる歩兵一個中隊は南山城子より連山重疊波濤の如き間を潛行する約二里にして頭道城廠の溪谷に出で進んで六官巷の村落に位置したり午前九時偶々敵歩兵約三個中隊騎兵約五百砲四門より成る一縱隊其全兵力約一千五百にして殆ど我の六倍強に相當する一隊の六官巷南方高地に逸出せしを發見したり當時大尉の意竊に思らく「纔に一個中隊の歩兵を提げて斯の優勢なる部隊に當る事頗る大膽なるに似たるも敵と相距る既に甚だ遠らざるに一發の銃火猶且之に加る莫んば遺憾是より大なるは無し成か否か豫じめ知べからざるも予は予の職責を盡し斃れて而して後止まむ」と意既に決し即ち直に部下に令して敵の右側を衝き自ら陣頭に起て勵聲叱咤す勇將の下に弱卒無し小隊長以下の幹部號令明晰にして射撃の目標射度の緩急悉く機宜に適せざるは無く而して射手の態度は尤も沈着を極め我に數倍する敵前に在りて其照準其發射些も精神上の感動の波及して錯誤を生じたるなく數時の後我の發射彈克く數百の敵兵に命中して死傷漸く續出したれば敵は脆も退却を始めたるにぞ大尉は忽ち突撃を令して之を追撃して一千餘の敵兵北方に潰亂するに對して猛射を加へたれば彼の損傷

益々甚だしく委棄したる敵の屍體のみにても五十の多さに上り斃馬十一輻重車三と多數の小銃彈藥とを共に戰場に委棄して遁走せしめ小銃三器具十一雜品若干を鹵獲し後方に運搬せる死者の數にして我の目撃したるものゝみにても百五十以上に達したるを見れば彼の損傷が如何に痛烈を極め我の動作が冷靜沈毅にして機敏迅速を極めたるかを推するに足る纔に一個中隊の歩兵を以て斯く多大の敵兵を撃破す事既に偉なり而も敵に與へたる損害の斯くの如く多大なるに至ては誰れか之を異數の功績なりと稱揚せざらむや大尉の武名今や全軍に喧傳せり

●英額城方面戰況

九月六日午前曲柳川方面敵兵進出の報を耳にするや英額城方面の我部隊は歩兵三個中隊機關砲數門と砲數門を富塚少佐の指揮下に屬せしめ南山城子の西北約三里の花樹哨附近に進出せしめたるも此時敵は既に退却して北方に潰走したるを以て一彈をも費消する事無くして引返したるが翌七日午前十一時頃敵歩兵二個大隊と砲兵若干とは小白銀河方面より出動して年魚嶺北方高地に攀登したり是に於て年魚嶺は復た彈雨驟下の焦點となれり敵は同高地に攀登するや急遽展開を了り四庶子の谷地及我左翼方面の陣地に射撃を加へたるを以て半歲蜚ばず鳴かず將士